

「不利を有利に変えてくださる神」  
ヨハネの福音書 9章1節～7節

## はじめに

私たちには分からないことがたくさんあります。イエス様がこの世におられた頃のこと、弟子たちが生まれつき盲目の人を見てイエス様に質問しました。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか」。弟子たちは、なぜこの人が生まれながら盲目なのかを知りたかったのです。

### (1) エルサレムでの出来事。

いまイエス様は、エルサレムにおられます。ご生涯の最後の頃で、このままガリラヤには帰らず、十字架の死を迎えられる時の出来事です。宮で人々を教えておられました。人々はイエスに対して怒り、石を投げつけようとしていました。イエスは身を隠して宮から出て行かれました。

### (2) 盲人との出会い。

道の途中で、イエス様は生まれつきの盲人を見られました。弟子たちはイエス様に質問しました。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」

### (3) 神のわざがこの人に現れるため。

イエス様はこうお答えになりました。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」

### (4) 盲人の目は見えるようになった。

イエス様は、地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に塗って言われた。「行って、シトアムの池で洗いなさい」。そこで、彼は行って、洗いました。すると、見えるようになって、帰って行ったのです。

例話：ここからヒントを得たある学者が、土から抗生物質の一つを発見しました。

## 2 ここから教えられること。

### (1) 不幸の原因を罪の結果とする考え。

自分ではどうすることも出来ない不幸があります。この人の場合は、「生まれつきの盲目」です。皆さんの中にも、どうして私がこんな病気にとか、なぜこんな家に生まれたのかとか、いろいろあります。

この問題を解決するのに、よく使われるのが「罪」が原因なのだという考

えです。何か悪いことをしたからというのです。イエス様の弟子たちもそう考えました。この人の罪か、両親の罪かと。

この考えは、必ずしも間違えではありません。聖書も、「父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし」と教え、また、「人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠の祈りを刈り取るのです」とも言っています。

**例話：**今から 300 年ほど前。ドイツにアダ・ヨークという女の子が生まれました。成長するにつれ酒に親しむようになり、次第に酒量を増して、しまいには路頭に迷うほどに落ちぶれ、60 歳を越すとじきに死んでしまいました。

死後しばらくして、ベルマン教授がアダ・ヨークのことについて調べたところ、驚くべき罪の繁殖力の実例を見いだしたのです。

彼女の血統を引いた人々は、110 年間に 834 人あり、調べることでできた 709 人だけについてみても、私生児 109 人、乞食 142 人、養育院の世話になった者 604 人、売春婦 181 人、犯罪者 76 人、しかもそのうち 7 人は殺人者でした。

## (2) この考えの結果。

因果応報。運命論。悲観的。あきらめ。

**例話：**「日本の障害者の歴史」という花田春兆さん（国際障害者年日本推進協議会副代表）の論文によりますと、日本の障害者の歴史は、必ずしも明るいものではありませんでした。特に、鎌倉・室町時代に仏教が一般に広がると、この「因果応報」の教えが悪い影響を与えたと言われています。普通でない者は劣悪な者だという障害者観を広めたというのです。

確かに、近年まで、老人には「姥捨て山」、障害者には「家の中の牢」などがあり、また多くの差別語がありました。いざり、びっこ、かたわ、めくら、おし、つんぼ、どもりなど。今では使ってはいけないことはあったことは、日本の障害者対策の遅れを示しているでしょう。

## (3) イエス様の答え。

「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」

悲観しなくてもよい。あきらめなくても良い。希望があるとイエス様は言われました。

イエス様は、盲人を癒し、耳のきかない人を癒し、足の不自由な人を立たせ、手のきかない人の手を治しました。障害者に生きる希望をお与えになったのです。

使徒パウロのも、目がよく見えず、持病はいやされませんでした。神様に用いられました。

**例話：**ビジシック青年は、生まれながら、両手、両足がありませんでした。牧師の

家庭で生まれましたが、8歳の時に自殺を考えたそうです。しかし、ある時、エレミヤ書 29 章 11 節のみことばに出会い、考えが変わりました。「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。それはわざわざではなく、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ」。

17歳の時から積極的に自分のことを人々にあかしするようになり、今日では伝道者として世界中の人々にイエス・キリストの救いを伝え、多くの人々に勇気と希望を与えています。

例話：日本の福祉に大きな影響を与えた歴史的な出来事。

- ① 8世紀の聖武天皇<sup>しょうむ</sup>の後、光明皇后<sup>こうみょう</sup>は、奈良に「非田院」「施薬院」「療病院」等の施設を作り、貧困者、病人を助けました。この光明皇后に大きな影響を与えたのが、東方教会（景教）の宣教師であり、医師であった李蜜医でした。東方教会の宣教師は、それまで、アジアで、このような施設を沢山立てていたのです。
- ② 15世紀のカトリックの宣教師たちも、病院、孤児院、貧民救済施設を作り、慈善事業を行いました。
- ③ 19世紀のプロテスタント宣教師たちも、医療伝道、教育を行いました。ヘボン博士は医者でしたし、宣教師や婦人は、特に女子教育に力を入れました。  
片山潜の「キングスレー館」  
石井十次の「岡山孤児院」  
留岡幸助の「家庭学校」

### 3 どうしたら、神のみわざは現れるのか。

#### (1) 肉の目の開眼。

イエス様は、つばでどろを作り、それを彼の目に塗り、シロアムの池で洗いなさいといわれました。大切なことは、この奇妙な命令に、この盲人は素直に従ったことです。そのイエスに対する信仰（信頼）が彼の目をいやしたのです。

#### (2) 霊の目の開眼。

この信仰は、彼の肉眼をいやしましたが、さらに彼は、霊の目も開かれることとなります。彼はまだ、自分をいやした方がどのような方かしりませんでした。イエス様は彼に会い、「あなたは人の子を信じますか」とお聞きになりました（35）。彼が「主よ。そのかたはどなたでしょうか。私がおの方を信じることが出来ますように」と言うと、イエス様は、「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです」とお答えになりました。彼は「主よ。私は信じます」と答え、イエス様の弟子になりました。

例話：日本の盲人の指導者となった岩崎武夫という人がいます。彼は学生の頃、ある夏休みに家に帰りました。「お母さん、今日はいやに暗いね。雨でも降るの

だろうか」。外は真夏のかんかん照りの日でした。ビックリした母はすぐに彼を眼科医に連れて行きましたが、不治の眼病だと宣告されました。若い彼は失望してカミソリ自殺をはかろうとしましたが、母が素早く見つけて事なきを得ました。「お前もつらかろうが、お母さんのためにも生きておくれ」。母のことばに励まされ、生きる望みを探し始めました。点字で聖書を読むうちにヨハネの福音書9章のこの記事を読んだのです。そして「ああ、そうか。人よりも困難をおった私は、神様が、普通の人にはではなく、こんな私の上にみわざを現してくださるためだったのか。そう信じよう」と決心したのです。

**例話：**善通寺にある四国学院大学の校舎に松浦茂晴教授のレイーフがはめ込んであります。松浦さんは学生時代に失明しました。しかし、クリスチャンの女性に出会い、結婚することにより、アメリカ留学を果たし、日本で初めて盲人で教育学博士号を取得し、四国学院大学では教育学を教え、文学部長をされました。奥様が菊名西教会の会員となられたので、教授のことも知ったわけです。

**適用：**イエス・キリストは、十字架にかけられ殺されました。この時人々はこう尋ねたかもしれません。「この人が十字架につけられたのは、この人が罪を犯したからですか」。するとイエス様はこうお答えになったでしょう。「わたしが罪を犯したのではありません。神のわざがわたしに現れるためです」。人々は、弟子たちでさえも、キリストが十字架で殺されたことで、すべてが終わったと思ったでしょう。これは敗北と考えたでしょう。しかし、このキリストの十字架のよって、神のわざが現れたのです。以後、何億人という人々がキリストの十字架によって救われたではありませんか。

## 結論

この章の初めに、「イエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた」とあります。イエス様は、見過ごさないのです。私たちは、不幸な人を見ると避けたいくなります。まともに見られません。しかしイエス様は見られるのです。決して見過ごされないのです。イエス様は、私たちひとり一人を愛しておられ、ご計画をもっておられます。ですから、絶望したり、あきらめる必要はまったくありません。「神のわざが現れるためです」とおっしゃってくださいます。

私たちを通して、神様はどんなことをなさろうとしておられるのか。わくわくするではありませんか。希望をもってください。イエス様は、あなたを愛しておられます。あなたのことを思っていてくださるのです。